

規定類見直し委員会の立ち上げ！

長岡京吟詠会では会則をはじめ、会の運営に必要な諸規定を定め逐次見直しながら今日に至っております。しかしながら、過去の慣例、昨今の会員の高齢化、会員数の減少等に適応した見直しが遅れており、種々の問題が顕著になってきました。今回これらの問題を解消すべく、現規定を一斉に見直し、現状に即したものに改定するために、執行部および運営会が中心となり「規定見直し委員会」を立ち上げることになりました。

中でも表彰規定や資格認定実施規定は早急に見直す必要があり、先般(6/18)第一回の委員会を開催いたしました。特に資格認定規定は総本部の内規に基づき実施することになり、師範代・四段以上の審査基準が厳格になりますので、受審に際してはこれまで以上にしっかりお稽古して頂きたいと思っております。 委員長：高橋賀秀正

全丹地区吟士権者決定詩吟大会(6/25)

令和5年度の全丹地区「吟詠・剣詩舞道祭」が福知山大江町で開催されました。全丹地区の京都府詩吟連盟加盟団体は、賀堂流牧水吟詠会をはじめ、神心流、大雅流、景心流の4団体です。当日のコンクールの部で牧水吟詠会の皆さんは、合吟の部で2位(準優勝)、一般一部で森安佐子さんが同じく2位(準優勝)また一般一部出吟者4名とシニアの部出吟者2名の成績を上げられました。

(広報部)



全丹地区吟詠詩舞道祭
牧水吟詠会の合吟

シリーズ【詩吟と空手】 その1 尻枝賀秀道

日本の空手道には、伝統的な流派として「和堂流」「剛柔流」「松涛館(日本空手協会)」「糸東会」の四大流派とそのほかに「極真カラテ」などがあります。

私が入門したのは、昭和50年ごろ滋賀県大津市にあった糸東流の道場でした。初めてもう50年近くになります。きっかけは、仕事で街を回ることが多かったのですが、ある時、ある家に大きな「空手道場」と書かれた看板を見たのが始まりです。とても興味を惹かれました。そして入門させていただきました。

道場では、春と夏に合宿があり、そこで組手や形審判の講習会の勉強をしたのを覚えています。いまは、長岡京市の道場で週2回、子供たちを中心に指導をさせていただいております。また試合の審判もしております。

空手道は、基本、立ち方、姿勢、腰の使い方(腹筋)、呼吸、目線など詩吟道と同じだと思います。詩吟も発声は腹筋を使い、声を前に出しています。そして姿勢を良くしてまっすぐ目線を前にして詩情を表現します。

ただ発声練習だけは空手道にありませんので、その辺は詩吟道の方が難しいと思います。次回は、空手道についてお話しします。お楽しみに！！



私の吟詠剣詩舞人生 その4 佐藤凱涼仙

私は、その後、「詩舞」も教わることになりました。凱山先生は「詩舞」の振り付けも素晴らしく、原稿用紙に振り付けを書いてくださり、2名の女性の先輩と宗家で『アーでもない、コーでもない』と踊っておられるのを見て、私も3人をまねして、最後に凱山先生に見ていただくお稽古でした。

「紅葉狩り」などの長物を、琵琶の先生の伴奏に合わせて「次は何だっけ?」「次は何だっけ?」と3人を見ながら舞台上に立っておりました。

凱山先生はとてもやさしく、ただただ甘やかされて、一度も叱られたことがありませんでした。

「古城」を踊ったときに、前にどうしても向きなおれず、最後まで後ろ向きのまま終わってしまって叱られるのを覚悟していましたが、凱山先生は「オーオー大変だったなあ。よくがんばった」と叱られませんでした。

私は28歳で詩舞の師範となり、31歳で母校の「吟詠部」で詩舞の指導をすることになりました。

そのころ「吟詠部」の生徒さんは50名ほどいて、学年ごとに3つの教室を飛び回って指導しておりました。そのうち結婚10年目で子どもを授かり、宗家が生徒さんを指導をしてくださることになりました。

ただ、踊りが好きなこともあり、その後も子供を育てながら舞台には立っていました。

私と詩吟の出会い

今村和子

詩吟を始めて40年。この4月で89歳になりました。思い返せば中学1年頃だったと思います。母が詩吟が好きだったのででしょう。剣舞をしなさいと言われ、母がべんせいしゅくしゅくの詩吟をして私か横で剣舞をした覚えがあります。そんな母も若くしてこの世を去りました。

その後、数十年がたち、私が50歳になった時です。お友達の家に行ったところ、たまたまそこで長尾賀秀鈴先生が詩吟の教室をやっておられ誘われたのがきっかけで詩吟をやるようになりました。今では母の供養になると思いがなばって続けております。

詩吟のおかげで姿勢もよく腹式呼吸で声もよく出ているようです。身体の衰えは感じますが、気持ちはまだまだ若いです。これも詩吟をやってきたおかげだと思います。

健康維持とボケ防止にこれからもずっと続けていきたいと思っております。



記事修正

7月号で報告した府連コンクールジュニアの部の高橋拓来くんは「一般入賞」ではなく「2位の上位入賞」でした。

(編集室)

R5/8・9月の予定

- 8/11(金)【全国吟詠コンクール近畿大会】
大東市市民会館
- 8/27(日)【コロンビア吟詠コンクール近畿大会】
京都ふれあい会館
- 9/10(日)【賀堂流吟士権大会】
姫路 あすかホール
- 9/10(日)【京都府連創立60周年、
京都府総連創立45周年記念祝賀会】
ホテルオークラ
- 9/17(日)【愛連一部決勝大会】
尼崎アルカニックホール
- 9/24(日)【後期昇格審査会】

(事務局)

府連二部指導者級吟士権大会7/9結果報告

7月9日、令和5年度の京都府連二部(指導者級)コンクールが行われました。長岡京吟詠会からは、米山賀秀琳さんと辛嶋賀秀感さんが出吟され、以下の良い結果でした。

・米山賀秀琳さん…第一会場三位で、10月1日の「愛連第2部吟士権者決定詩吟大会」、11月26日の「府連吟詠・剣詩舞道祭」の決勝大会出場。

・辛嶋賀秀感さん…一般入賞。

(広報部)

ジュニア・シニア燦爛優勝者決定詩吟大会結果報告

7月23日愛連主催ジュニア・シニアの優勝者決定詩吟大会が行われジュニアで出吟の高橋拓来くんが決勝まで進み12位でした。

(広報部)

鴨川納涼祭2023に米山さんが出吟!

8月6日(日)に鴨川の河川敷で行われる、【鴨川納涼祭】に、京都府連が吟剣詩舞を発表することになり、その番組に米山さんが添え吟で出場されます。舞いは棉生流の棉生珠童先生で、吟題は「嵐山に遊ぶ」(頼山陽 作)です。時間は20:30頃です。場所は三条大橋と四条大橋の間の河川敷の特設ステージです。

令和5年度 新入会員ご紹介

お3く
本願いおす

太田 昌子さん (おおた あつこ)

住 所：長岡京市井ノ内
入 会：令和5年7月より
クラブ：秀邦詩吟クラブ

この度、テニス仲間に誘われて、横山先生の教室で詩吟を教えて頂くことになりました。今まで一度も声を出した事などなく、先生や先輩の素晴らしい声に戸惑うばかりです。何も分りませんが、とりあえずお腹から声を出すことを目標に、頑張っ続けたいと思います。どうぞよろしく願い致します。

詩吟の基礎技術 その11

高橋賀秀正

詩情を表現する上で大切な要点・要素

- (1) 漢詩の大意、作者の心情・想い・時代背景などから全体の詩の感じをイメージします。
[例：風景・叙景・叙情・哀愁・懐古・静寂・教訓・勇壮・雄大・壮重・烈々など]
- (2) 漢詩の素読を十分行い、起承転結の各部分において盛り上げる個所、速く運ぶ個所、ゆっくり運ぶ個所、情感を込める個所、強く吟詠する個所、弱く吟詠する個所など決めます。
- (3) 詩文を明確に吟詠する。イントネーションを上げると言葉が繋がり、下げると切れます。
- (4) 節回しに入る前の母音はしっかり響かせる。発声の基本は、
 - ① 詩文を明瞭に発声する。
 - ② 最後の拍を少し伸ばしながら母音に移行し、良く響いた母音が出てから節に入るとメリハリのある吟になります。
 - ③ 特に助詞は、強調すると感慨が表現できます。助詞の強調は、切っけしかも気持ちを繋げる「意連」が重要です。
- (5) 詩文の拍の運びについては、溜め、緩急、強弱を用いてメリハリを付けること。
- (6) 節回しの運び方については、緩急・強弱・長短、小節、節回しの終わりの押留めに気を付けること。
- (7) 詩文から詩文に移る場合の間の取り方は重要です。詩の流れに合った間が取れるよう素読を十分行う事
- (8) 詩情の感じに合った吟声で吟詠する。(明るさ、大きさ、強さ、太さなど)



ほっと一息、休憩タイム

動物も詠うの?

私のペット、柴犬の儀一くん。「発声練習がしたいの?」。裏で待つように言うと、きちっと座って待っていました。じゃあ『ア』からね。『アー』…『ウォー』。『アーよ!』…『ウォー』。五回目ぐらいになると頭を垂れて悲しそうです。『オー』の時は目が輝いて『ウォー』と得意気です。『上手、オーは上手ね』という嬉しそうです。庭のどこにいても、『弘道館に梅花を賞す』と『九段の桜』が聴こえてくると走ってきます。縁側の戸を鼻でこじ開け、前脚2本を中に入れて、『ウォー』、『ウォー』と参加します。後脚1本もいつの間にか中に入れ、残り1本が沓脱石の上でおかしな格好です。我々と詠う声の長さは同じで、出も止めもびたりと合います。転句の高音部になると天のほうに顔を上げ、待っている姿を思い出します。もう1匹、というより1羽。インコは台所で料理をする私の肩で、『カンチュウ、カンチュウ』とかわいい声で言っていました。 横やん



『ぎんまい長岡京』 編集室

編集委員長 尻枝賀秀道

編集委員 市丸、櫻澤、後藤、宮小路

※連絡・問合せ先 尻枝賀秀道

Tel: 075-954-9092